

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520382

研究課題名(和文) ヨーロッパ的コンテキストにおけるロシア・アヴァンギャルドの美的原理

研究課題名(英文) Aesthetic Principles of Russian Avant-Garde in the European Context

研究代表者

Grecko Valerij (Grecko, Valerij)

神戸大学・国際文化学部・非常勤講師

研究者番号：50437456

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円、(間接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：アヴァンギャルド運動はコスモポリタニズム的な現象であり、その芸術は国の枠組みを超えて国際的なコンテキストで理解されるべきである。アヴァンギャルド芸術の普遍的特徴は、意味論的傾向とパフォーマンス的な傾向であるが、一般的にパフォーマンス的な傾向の方がより創造性に富み、現代にまで受け継がれて、新しい芸術の可能性を広げている。アヴァンギャルド芸術にはシンクレティズムの傾向もあり、ひとつの芸術作品の中に言語的テキスト、図像、音響、動きなどの組み合わせが存在する。この意味で文化は単一言語的なものではないというロートマン主張は有用である。アヴァンギャルド芸術も多種多様な芸術実践の集積だからである。

研究成果の概要(英文)：The avant-garde movement represents a cosmopolitan phenomenon, which extends beyond the national borders and should be understood in the international context. Two major trends in the poetics of the avant-garde can be characterized as a tendency towards semantics vs. a tendency towards performance. Generally, the performative tendency resulted to have more creative potential for the further development of the avant-garde, and it has been widely adopted in the modern art. The avant-garde is characterized by syncretism, where the verbal text is combined with visual, sonic, kinetic and other components in the same work. In this sense Yuri Lotman's view of culture as a multilingual mechanism proves to be a very useful instrument for the investigation of the avant-garde, because the avant-garde represents a complex phenomenon, consisting of heterogeneous parts.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学(英文学を除く)

キーワード：ロシア文学 アヴァンギャルド芸術 ロートマン 記号論

### 1. 研究開始当初の背景

アヴァンギャルドは19世紀から20世紀初頭にかけて起こった芸術運動であり、その運動は全ヨーロッパのみならず、当時のヨーロッパ諸国の影響を受けた地域(アジアや南米など)にも広がりを見せた。その活動領域も、文学、舞台芸術、映画、絵画、音楽など、芸術の広い分野にまたがっていた。

このアヴァンギャルド運動が他の芸術運動と明確に異なるのは、アヴァンギャルド芸術家たちが芸術表現の変革と人々の意識改革、価値体系の解体・創造とを明確に結び付けていたこと、そしてその一定の部分においては、その目的が果たされたという点にある。その結果、現代に生きる我々の美的感覚は、アヴァンギャルド芸術運動によって形成された価値体系を土台としており、だからこそ、バウハウスや構成主義などの作品が一定のサイクルでしばしば脚光を浴び、再評価されて、現代のデザインに好んで引用されるという現象が起きているのである。

従来の研究には、大まかに言って、次のような2つの傾向が見られた。

(1)作家論・作品論に限定する研究： 政治的な言説を離れてアヴァンギャルド運動をとらえようとする研究においては、ある特定の作家や作品を論じるケーススタディにとどまっている場合が大多数である。アヴァンギャルド運動の多様性を考慮に入れると、このような研究にはもちろん重要な意味がある。しかし次の段階として、このようなケーススタディを超えて、アヴァンギャルド運動に普遍的に見られるメルクマールを明らかにする研究が必要である。本研究はこのような、ケーススタディの次の段階としての美学的・記号論的研究を目指すものである。

(2)イデオロギーとの関係に焦点を当てた研究： このような研究においては、アヴァンギャルド運動はその過剰な前衛性ゆえに、志なかばで全体主義国家の政治的潮流に押しつぶされた(あるいは吸収された)ものとしてとらえられがちであった。アヴァンギャルド運動がさかんだった時期がヨーロッパにおける全体主義の時代と重なることを考えれば、このような理解は不可避である。さらにそれに続く冷戦時代のイデオロギーも、アヴァンギャルド研究に大きく影響した。しかし、このような研究はアヴァンギャルド運動のいわば外面だけを扱っているものであって、美的・芸術的な本質とは間接的にしか関係していない。

### 2. 研究の目的

本研究は、1910年代から30年代にかけて展開されたロシア・アヴァンギャルド芸術運動を取り上げ、特に文学作品にみられる言語実験を分析しながら、その手法が他の芸術分野にどのように応用され、どのような形式で表出されているのかについて考察することを目的とした。

ロシア・アヴァンギャルドは文学、舞台芸術、映画、絵画、音楽などのさまざまな芸術ジャンルで展開されたが、いずれにも共通して重要なものとなっているのが、「言語」をめぐる考察である。とりわけフォルマリズムと称される、詩的言語の構造分析に注目した芸術家や理論家の仕事は、20世紀を通じて文化研究の基礎作りに大いに貢献した。いわゆる記号論や構造主義など、あらゆる文化現象を言語の構造になぞらえて分析する手法は、この時期に展開された言語構造そのものへの関心に端を発している。このような文化研究の手法はロラン・バルトなど、いわゆる西側の研究者によって体系化され、応用されてきた。フォルマリストたちが活躍した時代から百年近い年月が経ち、この間に言語学や美学、認知心理学はさらに大きな発展を遂げて、フォルマリストや記号論者たちが打ち立てた理論を具体的に検証することも可能となった。

本研究では、アヴァンギャルド芸術運動において「言語」をめぐる考察が重要な役割を果たしていたことに注目して、特に言語芸術である文学に重点を置き、その中核をなすいくつかのメルクマール、たとえば「異化」や「ドミナント」が、他の芸術分野ではどのような形で発現しているかを考察した。

「ドミナント」はフォルマリストたちによって文学の分野に導入された概念である。ローマン・ヤーコブソンによると、それぞれの芸術作品の中には必ず、その作品の特徴を決定するひとつの中心的な要素があるが、その中心的要素を「ドミナント」と呼ぶのである。この概念は文学以外の芸術分野にも適用可能である。たとえば画家のマレーヴィチはその理論的な著作の中で、造形芸術における「付加的要素」について語っているが、そこで述べられていることは結局「ドミナント」と同じものである。したがって、「ドミナント」は必ずしも文学作品だけでなく、芸術作品一般に見られる特徴であると言える。また、現代の認知心理学の研究においても、人間が芸術作品を知覚する場合にひとつの要素が特に重要な機能を果たしていることが裏付けられている。このような「ドミナント」の例は、文学かその他の芸術領域かを問わず、アヴァンギャルド芸術について普遍的な考察を可能にする美的概念が存在することを示しており、そのような概念を規定していくことが、本研究の課題である。

### 3. 研究の方法

アヴァンギャルド芸術について普遍的な考察を可能にする部的概念を規定していくことが本研究の課題であるが、そのために次のような手順を踏んで研究を進めた。

- (1) 研究対象をまずロシア文学の分野に限定し、具体的なテキスト/言語実践からアヴァンギャルドの一般的傾向について考察する。
- (2) 記号論的なアプローチによって、特徴的

なメルクマールを抽出する。

(3)これらのメルクマールがその他の芸術活動（特に絵画と映画）においても見られるかどうか、見られる場合は、どのような形で発現しているかを考察する。

(4)研究対象を他のヨーロッパ地域のアヴァンギャルド運動にまで広げ（特にドイツとイタリア）、特定の言語圏における文化を超えた特徴がアヴァンギャルド芸術に見られるかどうかを考察する。

#### 4. 研究成果

(1)1920年代の文学作品をカーニバル化とグロテスクという観点から分析した結果、「動物の人間化」というモチーフが繰り返し登場すること（典型的な作品としてブルガーコフの中編小説『犬の心臓』がある）、さらにこのモチーフは他の芸術ジャンル（たとえば、最近発見されたショスタコーヴィチの未完のオペラ「オランゴ」）でも見られることがわかった。このモチーフはアヴァンギャルド芸術の「異化」の美学から生まれたものであると同時に、誕生したばかりの新国家ソ連の政治的コンテクストとも関連している。つまり、ソ連のユートピア的イデオロギーのひとつが「新しい人間」を生み出すことだったのである。

(2)1910～20年代に書かれた詩と、アヴァンギャルドの後継者たちによるその後の時代の詩を記号論的観点から分析すると、それらの詩においては意味論的な側面ではなく、統語論的・語用論的な側面が重要な機能を果たしていることが明らかになった。すなわち、アヴァンギャルドの言語芸術では要素の組み合わせの原則が支配的であり、読者／観客とのインターアクションにおいてはパフォーマンスが決定的に重要である。

(3)ユーリ・ロートマンはその記号論的著作の中で、文化は単一言語的なものではなく、多言語的な性質を持つと主張している。この考え方はアヴァンギャルド研究に有用である。なぜなら、アヴァンギャルド芸術も「アヴァンギャルド」とひとくくりにされてはいるものの、多種多様な芸術実践の集積だからである。

(4)1920年代に活躍した画家のマレーヴィチは理論的な著作も書き残しているが、その芸術論はロシア・フォルムリズムの理論と共通点を多く持つと同時に、現代の認知科学が展開する芸術論の先駆ともなっている。

(5)ロシア・フォルマリストたちの理論におけるキー概念のひとつである「ドミナント」は、文学のみならず他の芸術分野でも非常に重要な役割を果たしている。「ドミナント」はひとつの芸術作品の特徴を決定する中心的な要素であるが、これはひとりの芸術家の

スタイルを決定する要素ともなっている。

(6)ロシア語現代詩においては、他の芸術分野に特徴的な要素（視覚的・動的要素などの非言語的要素）がますます多く見られるようになってきている。詩は純粹に言語的な芸術から複合的芸術へと発展しつつある。

(7)ロートマンのコミュニケーション理論は芸術の基礎理論として応用可能である。なぜなら、芸術も一種のコミュニケーションだからである。

(8)アヴァンギャルド運動はコスモポリタニズム的な現象である。それぞれの国に固有の特徴は個別にとらえられるべきでなく、国際的なコンテクストで理解されるべきである。たとえばロシアのアヴァンギャルド芸術は地理的・歴史的理由により、ドイツとフランスのアヴァンギャルド芸術と深い関係にある。その相互の影響は、ただ単に思想や書物、絵画等の芸術作品が国を超えていったために生じたものではなく、芸術家自身が国境を越えて活動したために引き起こされたものだった。その一例はイリヤ・ズダニエヴィチである。彼はロシアで詩人としての活動を始め、革命後はフランスに移住し、パリの文化シーンに大きな影響を与えた。

(9)アヴァンギャルド運動の、国の枠組みを超えた普遍的傾向は、芸術家がどこへ行こうともすぐに受け入れられ、外国でもさらに力を発揮する素地を作った。パリやベルリンのようなアヴァンギャルド運動の中心地は一種の「創発」ととらえることができる。

(10)アヴァンギャルド運動の普遍的特徴とは、シンクレティズムの傾向（ひとつの芸術作品の中に言語的テキスト、図像、音響、動きなどの組み合わせが存在する）とパフォーマンス性である。このような特徴は現代にまで受け継がれ、メディアの発展と関連しながら、新しい芸術の可能性を広げている

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計8件)

Valeriy Grčko: К лингвистикопсихологической характеристике зауми Ильи Зданевича. In: Ичин, К. (ред.) Дада по-русски. Белград: Изд-во Белградского ун-та, 2013, pp. 189-203. (査読有)

Valeriy Grčko: Культурная эволюция и креативность: междисциплинарный подход. In: Юсупова, Г. М. (ред.) Системные исследования культуры, вып. 3. Москва 2013, pp. 96 – 112. (Karl Eimermacher と共著、査読

無)

Valerij Gretchko: Звук и значение в современной русской поэзии: сто лет после футуризма. In: H. Stahl, M. Rutz (Ed.) *Image, Dialog, Experiment – Felder der russischen Gegenwartsdichtung*. München: Kubon und Sagner, 2013, pp. 77–90. (査読有)

ヴァレリー・グレチュコ「回帰する周縁 ロシア・フォルマリズムとドミナントの変容」貝澤哉、野中進、中村唯史編『再考ロシア・フォルマリズム—言語、メディア、知覚』せりか書房、2012年、pp. 97–109. (査読無)

Valerij Gretchko: Jurij Lotmans Modell der kommunikativen Asymmetrie: Entstehung und Implikationen. In: S. Frank, C. Ruhe, (Ed.) *Explosion und Peripherie. Jurij Lotmans Semiotik der kulturellen Dynamik revisited*. Bielefeld: Transcript Verlag, 2012, pp. 79–96. (査読有)

Valerij Gretchko: В поисках универсальной грамматики искусства: теория прибавочного элемента Казимира Малевича. In: Ичин, К. (ред.) *Искусство супрематизма*. Белград: Изд-во Белградского ун-та, 2012, pp. 89–102. (査読有)

Valerij Gretchko: Паралингвистические средства современной русской поэзии. In: *Rossica Olomucensia* 50, 2011, pp. 133–138. (査読無)

Valerij Gretchko: Inszenierung der Geschichte: Ostalgie, fingierte Zeit und ihre mediale Darstellung. In: *Dogilmunhak (Korean Journal of German Literature)*, 52 (4), 2011, pp. 149–162. (査読有)

{学会発表}(計9件)

Valerij Gretchko: Перформативность в современной русской поэзии. 第5回東アジア・スラヴ・ユーラシア研究国際会議、2013年8月9日、大阪経済法科大学

Valerij Gretchko: НеопрIMITИВИЗМ в современной русской поэзии. *ロシア国立人文科学大学・トリーア大学共催国際会議* *Поэзия на переломе: основные тенденции поэзии после 1989 г.* 2013年5月29日、ロシア科学アカデミー言語学研究所(ロシア)

Valerij Gretchko: Стратегии девербализации авангарда. *ベオグラード大学主催国際会議* *Культура модерна: славянско-японский диалог*. 2012年8月28日、ベオグラード大学(セル

ビア)

Valerij Gretchko: Невербальные элементы в современной русской поэзии. *モスクワ大学主催国際会議「マルギナリア 2012: 文化とテクストの境界」*、2012年8月26日、カシーモフ市文化会館(ロシア)

Valerij Gretchko: О лингвопсихологической характеристике зауми Зданевича. *ベオグラード大学主催国際会議* *Авангардист Илья Зданевич*. 2012年6月15日、ベオグラード大学(ベオグラード)

Valerij Gretchko: От оппозиции к диалогу: развитие принципа дуальности в семиотической теории Юрия Лотмана. *タルトゥ大学主催国際会議* *Cultural polyglotism*. 2012年3月1日、タルトゥ大学(エストニア)

Valerij Gretchko: Метаморфозы «нового человека»: мотив очеловечивания зверя в советском искусстве 1920-х годов. *日本ロシア文学会第61回研究発表会パネルディスカッション「Карнавал революции: гротеск и советская культура 1920–1930-х годов」*、2011年10月8日、慶應義塾大学

Valerij Gretchko: Паралингвистические средства современной русской поэзии. *オロモウツ大学主催国際会議* *XXI Оломоуцкие дни русистов*. 2011年9月9日、オロモウツ大学(チェコ)

Valerij Gretchko: Политическая цензура и русские переводы Станислава Лема. *神奈川大学人文研究所主催* *スタニスワフ・レム国際シンポジウム*、2011年6月18日、神奈川大学

{図書}(計1件)

野中進、三浦清美、井上まどか、ヴァレリー・グレチュコ(共編著)『ロシア文化の方舟』東洋書店、2011、408頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

グレチュコ ヴアレリー(GRECKO, Valerij)  
神戸大学・国際文化学部・非常勤講師  
研究者番号: 50437456

(2) 研究分担者

( )

研究者番号:

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：